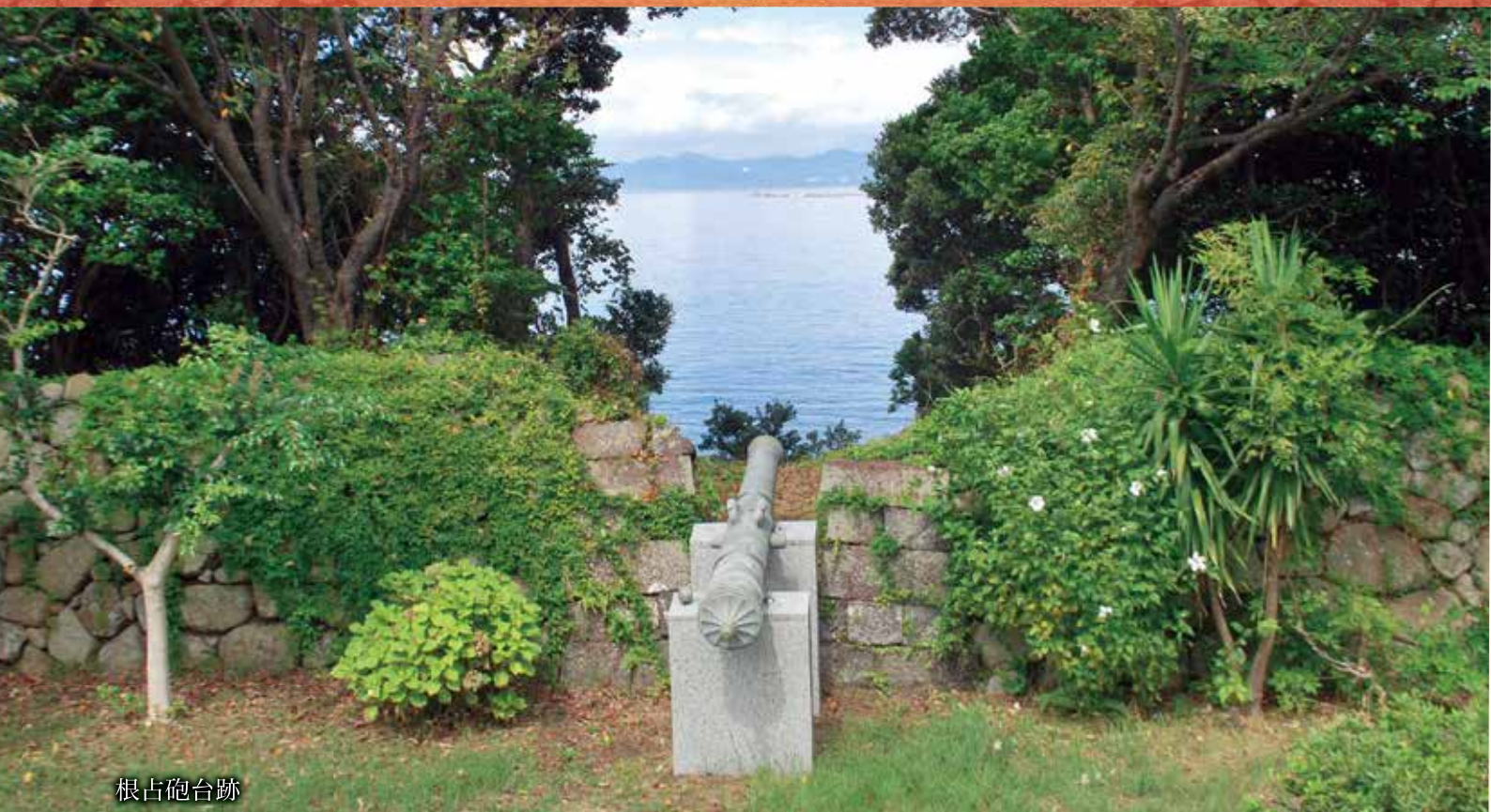


明治日本の産業革命遺産

～「産業国家」日本の原点 鹿児島～



根占砲台跡



開聞岳を望める海側の景観



砲台跡近くには斉彬が使用したという取水鉢が残る

根占砲台跡(台場公園)

【住 所】 南大隅町根占辺田 608-1

【アクセス】 南大隅町役場から車で約 10 分
※駐車場有り



世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産となっている県内3つの資産(旧集成館・関吉の疎水溝・寺山炭窯跡)以外にも、県内には島津斉彬の始めた集成館事業にまつわる遺産が多数広がっています。

島津斉彬の父・斉興なりおきは、外国船などを警戒するために、藩内各地に砲台を築かせました。1847年に完成した「根占砲台」は、薩摩藩の中でも、対岸の山川・指宿に次いで早い時期に築かれましたが、これは、この場所が錦江湾口の要衝の地であったためと考えられます。そして1862年の生麦事件後、イギリス艦隊の来航に備え拡張工事が行われ、現在の姿となりました。

薩摩の防衛力を高めるために、1840年代後半から50年代初頭に築かれた初期の砲台群の中で、今もなお当時の原型をはつきりととどめているのは、ここ「根占砲台跡」のみであり、貴重な遺産となっています。

1863年の薩英戦争では戦闘の機会はなかったものの、開聞岳と錦江湾の景観を一望できるこの海岸沿いに残る石積み

第4回 薩摩の防衛力を高める砲台 ～根占砲台跡(南大隅町)～

関連情報

産業遺産を彩る19のストーリー

アクセスはこちらから

「かごしま産業遺産の道」ホームページでは、19のストーリーで県内に広がる集成館事業にまつわる遺産を紹介しています。

